

セキュリティ技術の 向上のために本当に 必要なのは

早稲田大学理工学部情報学科教授 / JNSA 顧問
村岡 洋一



住基システムが稼動を始めて、久しい時間が経ちました。この間、セキュリティ技術上の問題が皆無だったとはいええないのは、残念な事実ではあります。しかし、最近発覚した問題に、他人になりすましてIDカードを受け取るという事件がありました。凝りに凝った認証メカニズムも、この前には全く無力です。

パスポートでも、他人になりすましてパスポートの発給を受けるという確信犯であれば、これを単なる住基システムなどの導入だけでは、防ぐことは出来ません。

システム(特にこれが電子政府であれば、なおさらのこと)というのは、単に計算機システムだけに閉じません。いやしくも社会システムであれば、人と人の窓口での対応から、最終的に必要な書類の手交に至るまでの、人から始まって人に終わるend-to-endの全ての鎖がきちんと設計されてこそ、完璧な「システム」と言えるのではないのでしょうか。そして、そのような「システム」が設計できてこそ、真のセキュリティ技術者です。

最近の事情は知りませんが、一頃のアメリカの優秀なシステム設計者(すなわち、SE)の多くはいわゆるITを専門としてきた人ではなく、むしろ社会学などの専門家でした。時にして、狭い範囲でしかものを見ないIT技術者よりも、そういった他分野の専門家のほうが、「システム」の設計に適しており、才能を発揮したのです。

最近は、幸か不幸かIT技術もより複雑になってきたために、計算機システムの設計も専門のIT技術者の能力が要求されています。

しかし、その反面、トータル「システム」の設計への気配りが疎かになっていないでしょうか。

昔は、いわゆる「使いやすさ」とか、「Man Machine Interface」という言葉で、この気配りの欠如を戒めてきました。これに対して、私達は「セキュリティ」という新しいキーワードで、この「システム」設計への気配りを進めなければなりません。

認証技術を知っている、セキュリティ・ホールへの対策を熟知している。こういった技術者を越えた、新しい「セキュリティ技術者」の育成のために、ぜひJNSAの活躍を期待しています。